

愛知県吹奏楽連盟 理事長挨拶

2020年度（令和2年度）は、愛知県吹奏楽連盟の60年の歴史の中で最も受難の年となってしまいました。

愛知県吹奏楽連盟は『吹奏楽による音楽普及向上を図り、文化の発展に寄与すること』を目的として、1960年（昭和35年）に発足し、2020年は創立60周年の記念すべき年となります。

しかし、2020年2月下旬から新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、感染拡大防止のために中部日本個人・重奏コンテスト愛知県大会を中止いたしました。また、個人・重奏コンテスト本大会や全日本アンサンブルコンテストの開催も中止になってしまいました。

その後、感染はあっという間に拡大し、3月2日から全国の学校が休業措置となり、4月には緊急事態宣言が発令されました。そして、5月中旬には全日本吹奏楽連盟の秋季事業や、東海吹奏楽連盟の前期事業開催中止が決まり、それを受けて愛知県吹奏楽連盟は前期事業の中止を決定し、発表いたしました。当連盟創立以来、吹奏楽コンクール等を中止することは初めてのことでです。

これらの大会に向けて練習に励み、一丸となって努力を重ねてきた吹奏楽部員の皆さん、とりわけ最高学年となる皆さんの活動の成果を披露する場が

奪われてしまったことは残念でなりません。皆さんのやるせない思いを察すると、胸が張り裂けるような気持ちになります。長い時間をかけて準備してきた創立60周年記念事業も、その多くが中止となりました。私たち連盟のスタッフも無念でなりません。この状況は、愛知県のみならず日本の吹奏楽界にとって最大の危機と言えます。

愛知県の緊急事態宣言が解除され、5月下旬から授業が再開されることになり、日常の学校生活が少しずつ戻ってきます。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、3つの密（密閉、密集、密接）を避ける行動が呼びかけられる中、吹奏楽の活動はこの3密の中で活動することが多く、依然として吹奏楽を取り巻く環境は、非常に困難な状況です。

愛知県アンサンブルコンテストや中部日本個人・重奏コンテスト愛知県大会、吹奏楽セミナー等の後期事業についても、今後の感染の状況次第では開催の可否を検討していかなければなりません。

この前例のない非常事態の中、私たち吹奏楽を愛する全ての者は、今後の動向に柔軟に対応しながら全ての力と英知を結集し、これまでの考えに捉われない吹奏楽活動を展開することが必要であると思います。愛知県吹奏楽連盟は、その先頭に立って「新型コロナ時期の新しい吹奏楽活動」の推進に努力していく覚悟です。上位団体である全日本吹奏楽連盟や東海吹奏楽連盟、中部日本吹奏楽連盟ともしっかりと連携してまいります。

愛知県吹奏楽連盟は、小・中学校部門、高校部門、大学・職場・一般部門の三つの部門連盟を縦軸、マーチング委員会、イベント委員会、セミナー委員会、行事担当委員会、全国大会実行運営局、事務局と会計局を横軸として、縦軸と横軸が有機的に関わり合いながら活力ある活動を行ってきました。今後は更に、この縦軸と横軸の関わりに指導者の年齢を超えた奥行きを加え、立体的で充実した吹奏楽活動を展開していきます。そして、これらの取組を多くの方々に理解していただくために、ホームページによる情報発信や、さまざまなメディアでの情宣にも力を入れていきたいと思えます。

最後になりますが、当連盟がここまで成長できましたことは、まずは各加盟団体構成員と指導者の皆様の熱意によるものであり、そのことに深く感謝いたします。同時に、これほどの規模に達するまで支え続けてくださった役員・先輩諸氏のご努力に、心より敬意を表したいと思えます。さらに、関連して支援していただいた全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

愛知県吹奏楽連盟の更なる充実・発展のため、今後も皆様方の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げまして、2020年度の挨拶といたします。

愛知県吹奏楽連盟第11代理事長 齋藤 和憲